

## 体験談から、キャリアについて考えるプログラムへ

公益社団法人 青年海外協力協会

「公益社団法人 青年海外協力協会」(以下「JOCA」)は、青年海外協力隊の経験者を学校に派遣し、その体験談を中心とした出張授業を実施しています。都立高校でも、海外での社会貢献活動を知る目的で、国際理解教育のプログラムとして活用されています。

このプログラムを「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」に合わせ、内容をアレンジして実施しています。

### プログラム名 ワークショップ「青年海外協力隊Lifeストーリー」 ～あなたが進路を選択する上で大切にしたいこと～

2コマ連続

- 1 国当てゲーム  
アイスブレイクのゲームでグループを作る。自分に渡された紙に書かれた国名を、他の人からのヒントを基に当てる。
- 2 Lifeストーリーを想像する。  
複数の青年海外協力隊経験者のLifeストーリーが書かれたイベントカードを、グループで話し合いながら並び替え、人生のキーワードを付ける。このうち一つが、当日の講師のLifeストーリーになっている。
- 3 講師のLifeストーリー紹介
- 4 進路や人生の岐路に立った時、大切にしてきたこと、大切にしていきたいことを伝える。
- 5 生徒たちも進路を選択する時に大切にしたいことを考え、グループやクラスで発表する。
- 6 大切にしたいことを踏まえて、自分の現在から未来までのタイムラインを考え、ワークシートに記入、発表する。

昨年、青年海外協力隊事業は、50周年を迎えました。JOCAは、青年海外協力隊に参加した人々で構成する公益社団法人です。隊員の募集から帰国後までを支援することを主たる事業とする団体ですが、国際理解教育や自治体の国際交流事業支援、災害時の支援活動や地方創生の取組等、事業を拡大しています。

青年海外協力隊は、異なる文化の中で苦労をしながら現地の人々と「協働」する事業です。その体験で得た異なる文化への適応・多様な生き方等を、グローバル化が進化する社会に生きる生徒たちに伝え、自分の将来について、何を大切に生きていくのかを考えるプログラムです。



## 高校生向け就業意識啓発講座

東京都産業労働局

東京都産業労働局では、「東京しごとセンター」からの講師派遣事業として、主に高校2年生を対象とした就業意識啓発講座を行っています。

### プログラム名 「働くことについて考えてみよう」

1コマ

- 1 進路・将来について
- 2 高校新卒者の就職環境
- 3 企業はどんな人を求めているか
- 4 就職後のことを考えてみよう
- 5 正社員とアルバイトの違い
- 6 社会保険について
- 7 働く目的について考えてみよう
- 8 これからの高校生活をどう過ごすか  
(連続2コマの場合は、③の後にコミュニケーションゲームが加わります。)



講義形式で就職環境を示すデータや就職活動のスケジュールなどを紹介するだけでなく、学校側の要望に応じて、コミュニケーションゲームや、生徒が自分自身を振り返るワーク等を入れることもできます。

### プログラム名 「自己PRの作成と話す練習」

2コマ連続

1コマの場合は④のみ

- 1 進路・将来について
  - 2 高校新卒者の就職環境
  - 3 働く目的について考えてみよう
  - 4 これまでの学校生活を振り返ってみよう
  - 5 これからの高校生活をどう過ごすか
- ①自分の性格(長所) ②学校生活 ③自己PRのシナリオ ④話す練習  
①目標設定 ②学校生活の大切なポイント

これらの講座の中では、日々の学校生活を大切にすることを強調しています。日頃、学校生活での学習活動は、社会から求められる人材のベースになる重要なこと、進路について、不安や心配があるのは当たり前であること、そのために、先生や保護者と早くから話し合うことも伝えていきます。

毎年、定時制も含めた延べ40校を超える都立高校でプログラムを実施していますが、例えば、自己PRを作成した学校では、目標設定ではなく、話した自己PRを書いて整理することに時間を割きました。他にも、普通科と専門高校では、資格取得やアルバイトの扱いなど、学校生活の振り返りの項目が異なる場合もあります。

## 探究型の力を付ける「クエストエデュケーション」

株式会社 教育と探求社

「クエストエデュケーション 企業探究コース」は、教室にいながら、実在する企業のインターンシップを体験する「株式会社 教育と探求社」(以下「教育と探求社」)のプログラムです。まず6社の中から、希望する企業にエントリーし、新人研修を実施して、社会における企業の役割を理解します。さらに、チームメンバーと協力して企業から与えられたミッション(課題)に取り組み、自分たちで考えた企画を提案します。本来は年間を通じて実施するプログラムですが、都立高校では短縮版で、14コマ(2コマ連続×7回)以上のプログラムとして実施しています。

### 平成28年度 協力企業

- オムロン(株)
- 大和ハウス工業(株)
- カルビー(株)
- (株)テレビ東京
- (株)クレディセゾン
- 富士通(株)

### ミッションの例(平成27年度)

- 「私たちが世界を変える！  
72億のハートを動かす大和ハウスの新商品を提案せよ！」
- 「私たちが世界を変える！  
夢をかたちにする富士通の新サービスを提案せよ！」

### 教員理解の促進

継続するプログラムを実施するために、教員がプログラムの内容を理解し、見通しを持って生徒を指導していくことが必要となります。そのため、教育と探求社では研修会を開催しています。

- 導入する学校で教員向け校内説明会
- 実施している他校の教員と企業人とで、共にプログラムを体験する研修会 など  
他校の教員と出会い意見交換することで、「自分自身が変わった」、「教員が協力し合うことで、大きな成果を生み出し、その結果、生徒に良い影響を与えられると感じている」という教員の感想があります。

### 全国大会へのエントリー

毎年2月に「クエストカップ全国大会」を開催し、ここにエントリーするという目標が生徒のモチベーションにつながっています。昨年度は、全エントリー作品1486作品の中で、都立高校からは6作品が選出され、全国大会に出場しました。

このプログラムで生徒たちは、実際の社会と連動した答えのない課題に取り組み、自分たちとしての答えを考えて、表現することを体験します。社会や経済の仕組みに触れるとともに、働くことの意義や楽しさ、大変さなどを、実感を持って学んでいきます。

### 【生徒の感想】

- チーム作業の難しさを学んだ。ただ、自分たちでも本気で取り組みれば、世界を変えるようなアイデアを生み出すことができるということ学んだ。
- これほど一つのことに夢中になって、集中した経験はこれまでになかった。電車に乗っていても、お風呂に入っている時も、ずっと頭の中で考えていた。仕事に夢中になること、その楽しさを知ることができた。社会人になる前にこの経験をできたことは宝物だと思う。
- 取組を通して、将来に希望する職業が変わった。安定を目指すのではなく、視野が広がったことが自分の人生にとって大きな変化だった。
- 社会で働いている人はかっこいい!と思った。



### コラム

教科「人間と社会」を平成28年度から全都立高校で実施しています。

東京都教育委員会では、平成19年度から実施してきた教科「奉仕」を発展させ、新しい独自の教科「人間と社会」を開発し、体験活動や演習を取り入れ、道徳教育とキャリア教育の一体化を図った教育活動を展開しています。

教科書の最初のページには、「これから何を大切にして、どのように生き、そしてどのようにして幸せな世の中にしますか。」と、学習の視点が記載されています。急激な社会の変化に伴い、一人一人が自らの人生観や価値観を形成し、他者と対話し協働しながら、より良い解決策を生み出していくことが必要になっています。